

入所施設での体調不良者・陽性者発生時対応ポイント

体調不良者・陽性者が発生した際に最初に行う5つのポイント

- ① 体調不良者・陽性者の隔離
- ② 必要な資材の確認
- ③ 陽性者、濃厚接触者のリストアップ
- ④ 施設内のゾーニング
- ⑤ 職員の役割分担



① 体調不良者・陽性者の隔離

- ✓ 体調不良者・陽性者を個室に移す。
 - ・部屋が足りない場合は、陽性者のみで同室とし、体調不良者、濃厚接触者は別室とする。
 - ・別部屋にいた体調不良者や濃厚接触者を集めて同室にはしない。
- ✓ 陽性者・濃厚接触者の部屋の入口に、張り紙や目印をつける。
 - ・全ての職員がどの部屋に、どのような感染防護で入れればいいか分かりやすくする。

② 必要な物品の整理

- ✓ PPE（個人防護具）が揃っているか確認。
 - ・サージカルマスク：常に着用
 - ・N95 マスク：咳や大声を出す人の対応、痰の吸引等の処置で飛沫が飛ぶ場合に着用
 - ・フェイスシールド：飛沫暴露のリスクがある介助時（食事介助、口腔ケア）や大声をあげる又はマスクができない入居者を介助する場合に着用
 - ・手袋：体調不良者・陽性者の身体や周囲の汚染箇所に直接接触する場合に着用※入居者毎交換
 - ・ガウン：手以外の場所が体調不良者・陽性者に直接接触する場合やリネン交換時に着用
 - ・ヘアキャップ(必須ではないが、自身の髪を触りやすい方は被ることを推奨)
- ✓ 物品が足りているか・整理整頓がされているか確認。
 - ・ごみ箱⇒ふたの開け閉めで手指が汚染することを防ぐため、足踏み式が望ましい
ごみ箱がない場合は段ボールにビニールをかける形で代用可能(ふたを閉じない)
 - ・手指消毒液(ふたを開ける動作を省略するため、ポンプ式のもの望ましい)
 - ・レッドゾーン専用の体温計、パルスオキシメーター …等

③ 陽性者、濃厚接触者（候補者）のリストアップ

- ✓ 濃厚接触者となる可能性が高い人をリストアップし、早めに隔離と職員の防護を開始する。
 - 【濃厚接触となりやすい場面】
 - ・食事、入浴 …マスクなしでの近距離での接触
 - ・レクリエーション …飛沫が飛びやすい（例：歌）、近距離での対面（例：麻雀）は注意
 - ・適切な感染防護なしに陽性者を診察、看護もしくは介護していた職員
 - ・換気が不十分な車に同乗した入所者、職員

④ 施設内のゾーニングを実施

<ゾーニングの考え方>

レッドゾーン：陽性者・濃厚接触者がいるゾーン。

PPE（個人防護具）を着用（②参照）し、レッドゾーン内にあるものは、レッドゾーン外に持ち出さない。持ち出す場合は、消毒等実施する。

イエローゾーン：レッドゾーンからグリーンゾーンに戻る際に **PPE を脱ぐ場所**。

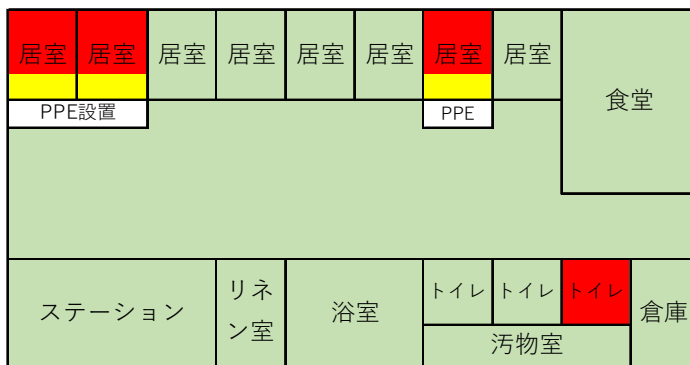
濃厚接触者のいるエリアではないので注意。

グリーンゾーン：清潔エリア。食事や休憩は必ずこのエリアで行う。

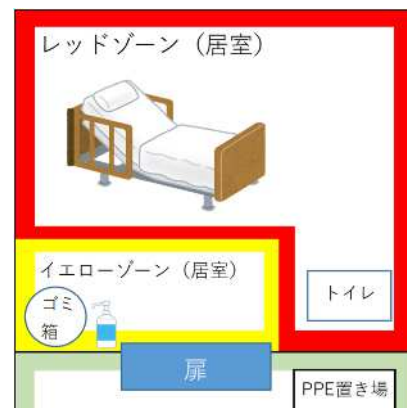
グリーンゾーンが多くとれると職員の負担が軽減する。

グリーンゾーンで PPE を着てレッドゾーンへ行く。

イメージ図（フロア内）



イメージ図（居室内）



出典：東北大学大学院医学系研究科 総合感染症学分野

<ポイント>

- ☑ 色付きのテープを床に貼る等してゾーン分けをする。
 - ・特にイエローゾーンの認識が職員によってバラつきやすいので、区域分けするとよい。
- ☑ ゾーンの境などにビニールカーテンはつるさない。
 - ・通り抜け時にカーテンに触れるためカーテン自体が不潔になり、換気の妨げにもなる。目隠しや仕切りとして使用する場合はパーテーションを使用する。
- ☑ ごみ箱・手指消毒液をイエローゾーン、フロアの出入口付近に設置する。
 - ・ごみ箱の近くに手指消毒液も設置し、**手指消毒を徹底**できる環境を作る。
- ☑ 陽性者の発生したフロア、ユニットは、陽性者以外も居室で食事をする等、接触機会を低減できるとその後の感染が広がりにくい。

⑤ 職員の役割分担を決める

- ☑ 陽性者の療養しているフロアは、できる限り担当職員を限定する。
 - ・陽性者、濃厚接触者の対応を行う職員が、その他の入所者のケアをする場合は、フェイスシールド+マスク+ガウン等の感染症対策を実施する。
- ☑ 陽性者が発生した際に、物資の確認や補充を担当する職員を決めておく。
- ☑ クラスタ発生時、施設内の療養状況等をスムーズに共有する仕組みを作っておく。
 - 例) ステーション前にホワイトボード等を置き、出勤時や勤務時に確認できるようにした。マニュアルの一部やフロア図（陽性者の部屋に色付けしたもの）を掲示して情報共有。